

コリント  
第一

13

# 「用いられる 喜びと共に」

コリント人への手紙 I 12章1～30節 聖霊の賜物

人の言葉  
言語の限界を  
知っておこう



## イエスや弟子たちは、何語で話してた？

- メインは、**ヘブル語**。 →間違いなく**ユダヤ人の母語**
- 日常では**アラム語**も？ →バビロニアなど北方の侵略者の言葉  
(**中東地域の共通語**)
- たまに**ギリシャ語**も？ →**世界帝国ローマの共通語**  
使徒たちの異邦人伝道ではメインに!!



# 聖書は何語で書かれてる？

## ①ヘブル語

…旧約聖書

## ②アラム語

…旧約聖書の一部

エズラ記4:8～6:18、7:12～26、

ダニエル書2:4～7:28…

新約聖書のマルコ福音書のごく一部

「タリタ・クム(5:41)」「エッフアッタ(7:34)」

「エロイ、エロイ、レマ・サバクタニ(15:34)」

## ③ギリシャ語(コイナー・日常語) …新約聖書

## ギリシャ語の深掘りのしすぎに注意!!

■ 新約聖書の土台はヘブル語の旧約聖書。イエスもヘブル語で話した。

■ 紀元前3世紀には、旧約聖書のギリシャ語訳「七十人訳」が翻訳。

→ 新約聖書にも「七十人訳」旧約聖書からの引用多数。

■ 新約聖書(ギリシャ語)は、<sup>ディアスポラ</sup> 離散のユダヤ人と異邦人向けに書かれた。

→ 本質は、ヘブル語による言葉、思想のギリシャ語への翻訳。

■ 翻訳した言語の意味や語幹を深掘りしても？ 本質を外れることも。

→ 人間中心のギリシャと、神中心のイスラエル。文化も異質。

## ヘブル語ができれば完璧？

- 紀元70年のエルサレム陥落以降、離散したユダヤ人は、日常語としてのヘブル語を喪失していった。
- 19世紀には、ヘブル語は聖典を読むときだけの神聖な言葉に。
  - ➔ ベン・イェフダー …ヘブル語を現代の日常語として回復。
  - ➔ 近代イスラエルの建国 …ヘブル語が共通語に。
- 近代人が20世紀に回復させたのが、現代ヘブル語。  
ヘブル語ネイティブには、もちろん圧倒的な優位性があるが、現代ヘブル語と聖書のヘブル語の大きな隔たりも覚えておこう。

## 文脈を押さえて読もう

- 旧約(ヘブル語)聖書と同時代のヘブル語文献など極めて希少。
  - ➔ 聖書は聖書から読み解くのが基本。語彙研究は有用。
- そもそも、神の言葉を人間の言葉で表現するのに限界が!!
  - ➔ 聖書に多用される**対句法**は、人の言葉の限界を補うもの。
- 神は、人の言葉の限界も、聖書が翻訳されることも当然ご存じ。
  - ➔ 一つの真理が様々な表現で、多様な角度から記されていく。  
言葉の意味と同時に、何より**文脈**を押さえて聖書を学ぼう。

コリント  
第一

13

# 「用いられる 喜びと共に」

コリント人への手紙 I 12章1～30節 聖霊の賜物



# アウトライン

## 0. イントロダクション

I. 聖霊の働き 12章1～3節

II. 聖霊の多様な賜物 12章4～11節

III. キリストの体 12章12～30節

IV. まとめと適用

聖霊の賜物を発見していこう



## コリントの手紙とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …55年頃。 **第3回伝道旅行**の途中
- **執筆場所** …長期滞在中のエペソ  
この後、コリントを再訪
- **対象** …コリントのキリスト者たち  
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **執筆目的** …過ちを正し信仰の成長を促す  
キリストの体なる一致を求める



海を挟んで約250km  
陸路を廻れば約1,000km

## 【当時のコリント】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の首都  
自由民20万人 + 奴隷50万人 = 計70万人
- 国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。  
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- 不道德の代名詞。「コリント人のように」  
少年への性愛や複数の愛人も当然。
- 神殿娼婦の存在。偶像崇拜が蔓延。

信仰者の自由をはき違えた放縦が問題に



コリントの遺跡  
アクロポリスの丘

序文		1:1~9
罪の叱責	①教会内の分裂	1:10~4:21
	②罪に対する懲戒	5:1~13
	③裁判の問題	6:1~8
	④性的放縦の問題	6:9~20
質疑応答	①結婚	7:1~40
	②偶像に捧げた肉Ⅰ	8:1~,
	③使徒の権利	9:1~27
	④偶像に献げた肉Ⅱ	10:1~
	⑤礼拝における秩序	11:2~34
	⑥聖霊の賜物	12:1~14:40
	⑦復活	15:1~58
	⑧献金	16:1~12
あいさつ		16:13~24



- 秩序
- 秩序
- 秩序
- 性
- 性
- 偶像
- 秩序
- 偶像
- 性
- 秩序
- 秩序
- 秩序



**I. 聖霊の働き**      Iコリント11章17～34節

## 【聖霊の賜物】 1コリント12:1～2

さて、兄弟たち。御霊の賜物\*については、私はあなたがたに知らずにいてほしくありません。ご存じのとおり、あなたがたが異教徒であったときには\*、誘われるまま、ものを言えない偶像のところに引かれて行きました。

\*聖霊の賜物 …普遍的教会での奉仕のための  
すべての信者への神の賜物

\*コリント教会の信者の多くが異邦人だった。



## 【聖霊の導きによる救い】 | コリント12:3

ですから、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも「イエスは、のろわれよ」と言うことはなく\*、また、聖霊によるのでなければ、だれも「イエスは主です」と言うことはできません\*。

\*信じて救われたのは、聖霊に導かれたから。

信じた者が、主イエスを呪うことはできない。

■信じてなくとも機械的に口にすることは可能。

信仰を偽る行為は、敵対者から出たもの。





## Ⅱ. 聖霊の多様な賜物

I コリント12章4～11節



## 【奉仕の賜物】 1コリント12:4~5

さて、賜物はいろいろありますが、与える方は同じ**御霊**です。奉仕はいろいろありますが、仕える相手は同じ**主**です。

- 聖霊の賜物を信者に与えるのは、**聖霊**。
- 聖霊の賜物をもって**仕える**対象は、**主**。
- 普遍的教会の**奉仕**のための聖霊の賜物は、まさに、**助け手**なる聖霊の本質から来ている。

奉仕のための賜物が聖霊に与えられている



## 【信者の奉仕の働き】 1コリント12:6~7

働き\*はいろいろありますが、同じ**神**がすべての人の中で、すべての働きをなさいます。

皆の益となるために\*、一人ひとりに\*御霊の現れが与えられているのです。

\*信者の奉仕の働き …主が内で働かれる。

\*普遍的教会の益

■聖霊の賜物は、普遍的教会の一員として、具体的な奉仕を行うための賜物であり、すべての信者に\*例外なく与えられている。



## 【知恵と知識】 1コリント12:8

ある人には御霊を通して知恵のことばが、ある人には同じ御霊によって知識のことば\*が与えられています。

### \* 霊的真理の具体的な状況への適用力

➔これを促すのが“勧める賜物”(ローマ12:8)

### \* 御言葉を理解し、体系化する能力

➔“教える賜物(ローマ12:7)”とも関連

教える賜物がなければ教師(牧師)は無理。



## 【信仰、癒やし、奇跡】 1コリント12:9~10

ある人には同じ御霊によって信仰\*、ある人には同一の御霊によって癒やし\*の賜物、ある人には奇跡\*を行う力、

\*厳しい状況で信頼を貫く力

\*癒やし、奇跡

➔必要に応じて、主が一方的、一時的に  
与える力

※この人が祈れば癒やされる、奇跡が起こる  
という性質のものではない。



## 【預言、見分け、異言】 1コリント12:10

ある人には預言\*、ある人には霊を見分ける力\*、  
ある人には種々の異言\*、ある人には異言を解  
き明かす力\*が与えられています。

\*直接の神の言葉を受け、人々に伝える力

→100%の正しさが求められる。

聖典完成後は、役目を終えた賜物

\*悪霊から来るものを即座に見分ける力

\*知らない言語で話す力。内容を理解できる力

とセットで用いられるべき。(1コリ14:13)



## 【源泉は一つ】 1コリント12:11

同じ一つの御霊がこれらすべてのことをなさるのであり、御霊は、みこころのままに\*、一人ひとりそれぞれに\*賜物を分け与えてくださるのです。

■ 聖霊の賜物は、みこころのままに\*教会に付与。

→キリストが源、聖霊が仲介者

■ すべての信者に\*最低一つは与えられている。

すべてを持っている人はいない。

すべての信者は、互いが互いを必要としている。





Ⅲ. キリストの体 Iコリント12章12～30節

## 【キリストのからだ】 1コリント12:12

ちょうど、からだの一つでも、多くの部分があり、からだの部分が多くても、一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。

- 普遍的教会は、キリストの一つのからだ
- ペンテコステから携挙までのすべての信者は、一つのキリストのからだの一部





## 【一つの御霊】 1コリント12:13


私たちはみな、ユダヤ人もギリシア人も、奴隷も自由人も\*、**一つの御霊**によってバプテスマを受けて\*、一つのからだとなりました。そして、みな**一つの御霊**を飲んだのです。

\*実際にコリント教会を構成していた人々

\*キリストに浸され、キリストと一体化した

→すでにある真理の表明が洗礼という儀式

■信じた瞬間、起こっていること(位置的真理)



聖霊の賜物も同時に与えられている

信じた者に宿る 聖霊は一つ

## 【すべては体の一部】 | コリント12:14~16

実際、からだはただ一つの部分からではなく、多くの部分から成っています。

たとえ足が\* 「私は手ではないから、からだに属さない」と言ったとしても、それで、からだに属さなくなるわけではありません。

たとえ耳が\* 「私は目ではないから、からだに属さない」と言ったとしても、それで、からだに属さなくなるわけではありません。

\*すべての信者は、キリストの体に属している。

➡人の意思は無関係。主がなされたこと。



## 【それぞれの部分】 | コリント12:17~18

もし、からだ全体が目であったら、どこで聞くのでしょうか。もし、からだ全体が耳であったら、どこでにおいを嗅ぐのでしょうか。

しかし実際、神はみこころにしたがって、からだの中にそれぞれの部分を備えてくださいました。

- キリストのからだのそれぞれの部分である私たち一人一人に固有の役割がある。



## 【からだは一つ】 Ⅰコリント12:19~20

もし全体がただ一つの部分だとしたら、からだはどこにあるのでしょうか。しかし実際、部分が多くあり、**からだは一つ**なのです。

■ 体の一部にすぎない者が、自分たちだけがキリストの真実の体だと主張するなら？

→ **キリストのからだ**を見失ってしまう

■ 自分や、自分たちのグループの働きをを強調するあまり、**普遍的教会**を見失ってはいないだろうか。



## 【弱く見える部分】 | コリント12:21~22

目が手に向かって「あなたは知らない」と言うことはできないし、頭が足に向かって「あなたがたは知らない」と言うこともできません。

それどころか、からだの中でほかより弱く見える部分\*が、かえってなくてはならないのです。

\*コリント教会で起こっていたのは、

弱く見える部分を切り離すこと。

例) 自由奔放な異邦人信者が、偶像に捧げた肉を徹底して避けるユダヤ人信者を疎んでいた。



## 【】 1コリント12:23~24

また私たちは、からだの中で見栄えがほかより劣っていると思う部分を、見栄えをよくするものでおおいます。こうして、見苦しい部分はもっと良い格好になりますが、格好の良い部分はその必要がありません。神は、劣ったところには、見栄えをよくするものを与えて、からだを組み合わせられました。

- 人は、劣ったところを隠し覆うが、  
キリストのからだでは、その必要はない。  
➡主イエスの栄光をまとっているから!!



## 【すべての部分が】 | コリント12:25~26

それは、からだの中に分裂がなく、各部分が互いのために、同じように配慮し合うためです。

一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分がともに喜ぶ\*のです。

\*かしらなるキリストがされていること

■すべての信者を一つにするのは、  
主イエスの愛、主イエスの命。

**主イエスのゆえ、共に苦しみ喜ぶ私たち**



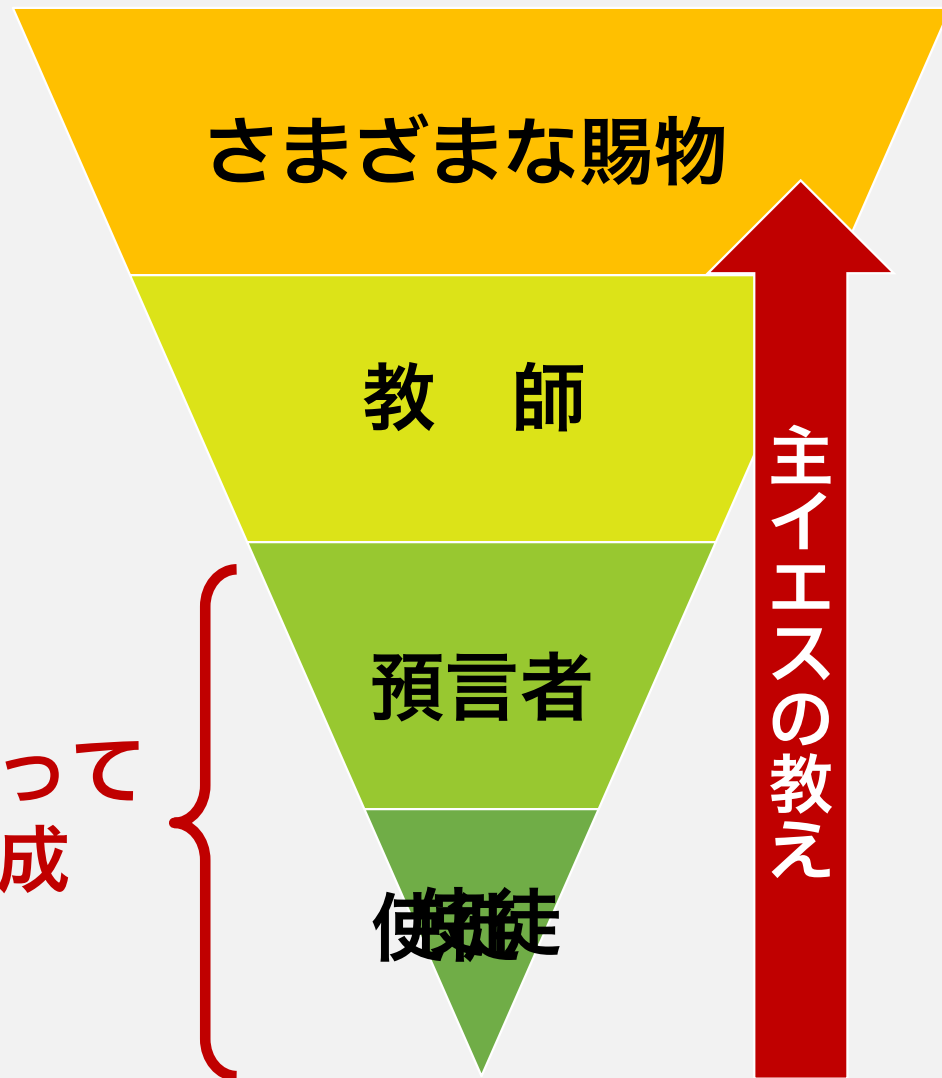
## 【教会の秩序】 1コリント12:27~28

あなたがたはキリストのからだであって、一人ひとりはその部分です。

神は教会の中に、第一に**使徒**たち、第二に**預言者**たち、第三に**教師**たち、そして力あるわざ、そして癒やしの賜物、援助、管理、種々の異言を備えてくださいました。

御言葉の伝達には  
明確な秩序がある

彼らによって  
啓示が完成





## 【賜物の秩序と多様性】 1コリント12:29~30

皆が使徒でしょうか。皆が預言者でしょうか。皆が教師でしょうか。すべてが力あるわざでしょうか。

皆が癒やしの賜物を持っているでしょうか。皆が異言を語るでしょうか。皆がその解き明かしをするでしょうか。

- 主の権威による賜物の秩序に従うこと。
- 個々に与えられた多様な賜物を尊重しあうこと。
- 賜物は主に与えられるもの。与えられた賜物に満足し、喜んで用いられていくことが求められる。



## 【賜物を求めよ】 1コリント12:31

あなたがたは、よりすぐれた賜物を熱心に求めなさい。私は今、はるかにまさる道を示しましょう。(→13章へ続く)

- すべての信者に最低一つは、聖霊の賜物が!!  
→ わからないのは、何もやっていないから
- 聖霊の賜物は、主イエスに従う**奉仕**の賜物。  
→ 主に従い、仕える中で見いだされていく
- 信仰の成長と共に、新たな賜物を発見したり、賜物がより深まり、強まったりしていく



次章では、  
すべての賜物に  
先立つ主の愛が!!



#### IV. まとめと適用

聖霊の賜物を発見していこう

## 聖霊の賜物とは？

- 信者に主から与えられる**一方的な恵み**。

「賜物」 = “カリスマ(ギリシャ語)” “マタナー(ヘブル語)”  
「救い」「節理的な守り」も “カリスマ”

- 役職や年齢、才能とは無関係。➔**霊性(霊的成長)とも別**。

聖霊の賜物が豊かでも、**霊性に問題があったのがコリント教会**

## 聖霊の賜物の特徴

- ① キリストが与えた、**教会を建て上げるため**の賜物。(エペソ4:11)
- ② 聖霊により**“みこころのままに”** 教会に与えられた。(1コリ12章)
- ③ **回心の瞬間**に与えられた。(1コリ12:13)
- ④ **すべての信者**に与えられている。(1コリ12:7、ロマ12:6他)
- ⑤ **普遍的教会**に与えられている。地域教会の聖霊の賜物は部分的。  
→ 普遍的教会だけが、すべての聖霊の賜物を持っている。

## 教会の信者の責務としての聖霊の賜物

1 ペテ4:10 **それぞれが**賜物を受けているのですから、神の様々な恵みの良い管理者として、その賜物を用いて**互いに仕え合いなさい**。

**①** **誰もが少なくとも一つ**の聖霊の賜物を与えられている。

**②** 聖霊の賜物は、**信者の間(教会の中)**で行使されるべきもの。

**③** 信者には、よき管理者として**本来の目的のために用いる責任**が。

## キリストのからだのための聖霊の賜物

ローマ12:4～5 一つのからだには多くの器官があり、しかも、すべての器官が同じ働きをしてはいないように、大勢いる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、一人ひとり互いに器官なのです。

### ■キリストのからだ(普遍的教会)

- ① 一体性 …すべての信者は同じ体に属している。
- ② 多様性 …それぞれの信者に異なった働きがある。
- ③ 調和 …キリストの愛によって調和を保っている。

一つのキリストのからだにおける多様な働きが、聖霊の賜物

## 聖霊の賜物の種類 ①～⑦ (全19種類)

ロマ12:6～8 私たちは、与えられた恵みにしたがって、異なる賜物を持っているので、それが**預言**であれば、その信仰に応じて預言し、**奉仕**であれば奉仕し、**教える**人であれば教え、**勧め**をする人であれば勧め、**分け与える**人は惜しまずに分け与え、**指導**する人は熱心に指導し、**慈善**を行う人は喜んでそれを行いなさい。

- ①**預言**…神の直接の啓示を伝える
- ②**奉仕**…ひとときわ高い奉仕
- ③**教える**…霊的真理を分かりやすく伝える。教師(牧師)には必須。
- ④**勧める**…適用の励まし
- ⑤**分け与える**…より多くを与える
- ⑥**指導**…マネジメント。長老に必要。
- ⑦**慈善**…病人、弱い人、貧しい人に助けの手を伸ばす。



## 聖霊の賜物 8~10 (全19種類)

エペソ4:11 こうして、キリストご自身が、ある人たちを**使徒**、ある人たちを預言者、ある人たちを**伝道者**、ある人たちを**牧師また教師**としてお立てになりました。

- ⑧**使徒** …特別な資格。復活のイエスに出会っている。  
証明としての奇跡(しるし)。 →啓示の完成までの賜物。
- ⑨**伝道者** …伝道において特に大きな成果を上げる。
- ⑩**牧師・教師** …教師に牧師の賜物が伴うとは限らない。  
牧師には、教師の賜物は必須。  
現実の地域教会における職責とは別。

## 聖霊の賜物 ⑪～⑬ (全19種類)

1 コリ7:7 私が願うのは、すべての人が私のように**独身**であることです。しかし、一人ひとり神から与えられた自分の賜物があるので、人それぞれの生き方があります。

**⑪独身** …より多くの時間、労力を主のために捧げることができる。

1 コリ12:8 ある人には御霊を通して**知恵のことば**が、ある人には同じ御霊によって**知識のことば**が与えられています。

**⑫知恵のことば** …霊的真理の具体的な適応力。

**⑬知識のことば** …御言葉を理解し、体系化する能力

## 聖霊の賜物 ⑭～⑰ (全19種類)

1 コリ12:9～10 ある人には同じ御霊によって**信仰**、ある人には同一の御霊によって**癒やしの**賜物、12:10 ある人には**奇跡**を行う力、ある人には**預言**、ある人には**霊を見分ける力**、ある人には種々の**異言**、ある人には**異言を解き明かす力**が与えられています。

⑭**信仰** … 厳しい状況で信頼を貫く力

⑮**癒し** ⑯**奇跡** … 主が一方的に一時的に与えられる力

⑰**霊を見分ける** … 悪霊から来るものを即座に見分ける力

⑱**預言** … 知らない言語で話す力

⑲**異言の解き明かし** … 異言の意味を語る力

} 一時的

} セットで用いられるべきもの

## 聖霊の賜物の種類 (全19種類)

- ①預言   ②奉仕   ③教える   ④勧める
- ⑤分け与える   ⑥指導   ⑦慈善
- ⑧使徒   ⑨伝道者   ⑩牧師・教師
- ⑪独身   ⑫知恵のことば   ⑬知識のことば
- ⑭信仰   ⑮癒し   ⑯奇跡   ⑰霊を見分ける
- ⑱預言   ⑲異言の解き明かし

聖霊の賜物は  
日々の具体的な  
奉仕のただ中で  
見出され、  
育まれていくもの

■あなたは、自分の聖霊の賜物を知っていますか？

具体的に奉仕する場所、兄弟姉妹同士の関係性を持っていますか？

自ら求めて奉仕しよう、聖霊の賜物を見出し、磨いていこう

## パウロが主の晩餐を通して投げかけていること

■パウロが強く促しているのは、主の晩餐への信者の備え。

①福音を信じて新生しているのか？

②日々、自分自身を吟味しているのか？

■パウロは目的を強く意識させる。何のための聖餐なのか？

Ⅰコリ11:26 ですから、あなたがたは、このパンを食べ、杯を飲むたびに、主が来られるまで主の死を告げ知らせるのです。

→携拳の瞬間まで、福音を告げ知らせ続けるための聖餐の恵み。

→主に招かれるその時まで、福音を告げる使命に歩み続けること。

**福音宣教の使命に派遣されるための、聖餐の恵みだと覚えよう**

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

わたしにも、聖霊(せいれい)の賜物(たまもの)があたえられています。

積極的(せっきょくてき)に 主にある兄弟姉妹との関係性(かんけい)を

求(もと)め、キリストのからだにある役割(やくわり)を見出(みいだ)し、

担(にな)っていくことができますように。

ますますよろこんで 奉仕(ほうし)するものとしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」